

Bioeconomy Hub Japan 2024

プラネタリーヘルス

～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～

【日時】 2024年4月19日（金）
13:00-18:00

【場所】 グランフロント大阪
タワーC 8F C03/C04
(現地参加のみ)

【主催】 Bioeconomy Hub Japan 組織委員会

【後援】 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

【参加費】 1万円 先着50名 【締切】 2024年4月15日

【申込み】 <https://bioeconomvhubiapan2024.peatix.com/>



現在、全国8箇所の認定バイオコミュニティが内閣府のバイオ戦略に基づき、バイオエコノミー社会の実現に向けて活動しています。本シンポジウムでは、バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスという地球規模の社会課題をどう解決するか、日本はどのような貢献ができるかについて、環境・エネルギー、持続的食料システム、グローバルヘルスの各分野の第一人者にお集まりいただき議論します。

基調講演



グローバルな疾病構造の変化と差し迫る地球環境問題

京都大学名誉教授 井村 裕夫 氏

最近全世界で肥満が増加し、WHOは世界肥満パンデミックとして警告してきた。肥満は東アジアでは少ないにもかかわらず糖尿病は増加しているが、その理由は明らかでない。こうした人種差は、COVID-19や、その後遺症にも関係する可能性がある。また現在注目されている地球環境の変化に対応する身体能力にも影響することも考えられる。



人新世を目指すプラネタリーヘルス

長崎大学 プラネタリーヘルス学環
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授 春日 文子 氏

人間の社会経済活動とそれに反応した地球環境変化の大加速が地層にも記録される「人新世」。相互に関連し合う地球環境、社会、人間の健康を全体として理解し、全体の健全さを目指すプラネタリーヘルスは、持続可能な社会のための先端科学技術や経済システム開発の視野の先に、掲げてほしい考え方である。

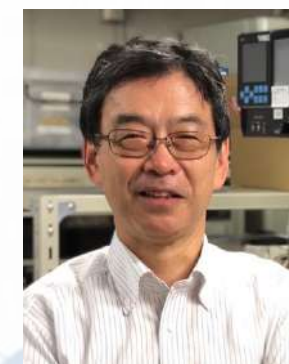
プログラムディレクター

坂田 恒昭
バイオコミュニティ関西
副委員長兼統括コーディネーター



環境・エネルギー テクニカルディレクター

近藤 昭彦 氏
神戸大学 副学長
大学院科学技術イノベーション研究科
教授



持続的食料システム テクニカルディレクター

小川 順 氏
京都大学大学院 農学研究科
教授



グローバルヘルス テクニカルディレクター

坂田 恒昭
大阪大学 共創機構 特任教授

**講演①****脱炭素を目指すエネルギーシステム**

公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE)
理事長 山地 憲治 氏

地球温暖化問題を解決するカーボンニュートラル実現はエネルギーの未来を方向付ける。SDGs (持続可能な発展への国連目標) の17ゴールやわが国のエネルギー政策の基本目標である3つのE (エネルギー安全保障, 経済効率性, 環境の適合) などをバランスよく実現するエネルギーの未来を考える。

**講演②****低炭素社会実現に向けたバイオものづくりへの挑戦**

株式会社カネカ 常務執行役員 R&B本部長
上田 正博 氏

地球は、気候変動・温暖化や社会経済活動による資源浪費などの環境問題により危機に面している。美しい地球を未来の世代に引き継ぐため、化学メーカーである株式会社カネカが挑戦している取り組みの一つとして、バイオものづくりにより地球を健康にする製品・技術開発を紹介する。

**講演③****食産業における新たな課題**

東京大学 名誉教授
東京農業大学 客員教授 阿部 啓子 氏

1. 「食による未病社会の構築」：一人ひとりが幸福だ、満足だと感じて活動する心身の健康状態 (生体恒常性) を支える次世代機能性食品の創出が求められており、その効果を評価・検証するデータサイエンスが必須である。
2. 「未来食品の創成」：持続可能な食糧生産と健康を維持する新食品の開発は食産業のイノベーションとなる。以上について食産業を考証する。

**講演④****食のサステナビリティとWell-being**

味の素株式会社 執行役 ビジネスモデル変革担当
グリーン事業推進部長 柏原 正樹 氏

現代の食は多様化、西洋化により、豊かにはなったが、環境負荷や健康面において新たな課題が出てきた。サステナブルでかつ美味しくヘルシーな食をアフォーダブルに届けるには、そして個人の嗜好や価値観を尊重しながら食を伝承していくには、どのような食システム、食スタイルを創れば良いか、論議を進めたい。

**講演⑤****One Healthアプローチの重要性：感染症の時代を生きるために**

国立感染症研究所 獣医科学部
部長 前田 健 氏

人口増加、食糧不足、地球温暖化など、地球を取り巻く様々な要因が動物に負荷を与え、結果として、動物由来新興感染症の発生に直結している。COVID-19のパンデミックはその象徴である。環境を守り、動物を守ることがヒトを守ることに結び付くことを改めて考える機会としたい。

**講演⑥****ライフサイエンス研究の動向と展望 (主にモダリティの観点から)**

国立研究開発法人科学技術振興機構
研究開発戦略センター
ライフサイエンス臨床医学ユニット
フェロー 辻 真博 氏

20世紀後半以降のライフサイエンス研究の急速な進展により、近年、次々と新たな創薬モダリティが登場している。本講演では、それらライフサイエンス研究、および多様化する創薬モダリティ研究開発 (低中分子医薬、核酸医薬、抗体医薬、遺伝子治療、細胞医療、ほか) について、これまでの歴史と現状、今後の展望について私見を申し上げたい。

プログラム

13:00	開会挨拶 : Bioeconomy Hub Japan 組織委員会 委員長 澤田 拓子
13:05	来賓挨拶 : 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上 大輔 氏
13:10	基調講演 : 京都大学名誉教授 井村 裕夫 氏
13:40	基調講演 : 長崎大学 プラネタリーヘルス学環 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授 春日 文子 氏
14:10	休憩
14:20	スピーカーからの話題提供 講演① 環境・エネルギー 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事長 山地 憲治 氏 講演② 環境・エネルギー 株式会社カネカ 常務執行役員R&B本部長 上田 正博 氏 講演③ 持続的食料システム 東京大学 名誉教授 東京農業大学 客員教授 阿部 啓子 氏 講演④ 持続的食料システム 味の素株式会社 執行役ビジネスモデル変革担当 グリーン事業推進部長 柏原 正樹 氏 講演⑤ グローバルヘルス 国立感染症研究所獣医科学部 部長 前田 健 氏 講演⑥ グローバルヘルス 国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー 辻 真博 氏
16:20	休憩
16:30	パネルディスカッション モデレーター 坂田恒昭、近藤昭彦氏、小川順氏 パネリスト 山地憲治氏、上田正博氏、阿部啓子氏、柏原正樹氏、前田健氏、辻真博氏
17:55	閉会挨拶 : Bioeconomy Hub Japan 組織委員会 副委員長 諸富 隆一
18:00	終了 * 終了後交流会